

都道府県別賞一等

保険から得られた選択肢

熊本県 熊本市立力合中学校 二学年

谷口 大雅

何か起きた時に「経済的な負担の軽減」や「万が一に備えて、加入しているという安心感」が保険から得られるもので、例えば病院でかかった費用を補えるなど、医療費の負担のためと想っていた。だが、保険から得られたものはそれだけではなかった。

二〇二二年九月頃、左足の膝より少し上あたりが腫れて痛みが出てきた。近所の皮膚外科医院では血管腫と言われ、地元の大学病院を紹介された。色々な検査のあと「血管に異常があつて腫れている」と先生はわかりやすく話してくれたが、「もし異常がある部分を切り取るならば範囲が大きいため皮膚移植が必要。お子さんだから費用もそんなにかからないでしょう。」と続けて仰った。テレビドラマに出てくるような「皮膚移植」という言葉に僕は驚いた。本当に？それしか治療方法はないの？思わず「嫌だ」と声が出そうになった。「隣の県の久留米大病院でなら、造影剤を使って血管に直接硬化剤を注入して硬化療法という治療ができます。」と先生はプランBのように仰った。それぞれの治療方法の説明を母は黙って聞いていたが、久留米大病院に紹介状をお願いできますか？と先生に話していた。

帰りの車の中で「これからは久留米で治療しようね」と聞かされた時、時間・お金・母の仕事の都合。どうするんだろうと不安になった。地元の病院で出来る治療は切り取る治療。怖いけど母に負担をかけたくない。という気持ちが強かった。

一晩経って、僕は考えを母に伝えた。「面会の制度もあるし、熊本で治療しよう。その方が早いし安くすむし。足だから傷跡なんて気にしないよ。」母は「はいはい」と言っただけで全然話を聞いてくれなかったが、ムスっとした僕を見て話してくれた。

母は僕の考えなんてお見通しだった。その上で、医療費と加入している医療保険について話してくれた。病院へ支払う医療費というのは公的医療保険制度もあり、事前申請すれば高額な支払いにはならない。加入している保険に請求すれば入院した日数かける日額。それから入院一時金。また、手術内容に応じて手術給付金が支払われる。

医療保険に加入しているのは、金銭的な原因で治療を諦めたりせず、最善の治療方法を選択できるように。治療に直接かかる費用だけでなく、目に見えな

第61回中学生作文コンクール

い費用をカバーするため。「せっかく入ってる保険だもん。使おう。」と母は言った。

病院代のためじゃなかったんだ。自分が治療方法を選択できるようにだったんだ。だから母は久留米で治療をするって直ぐに決めたんだ。そういう事だったのか。僕は納得しました。

それから何度か検査に行って、二〇二三年七月に久留米大学病院で下肢静脈瘤（硬化療法）の治療を一日の入院中に受けた。傷口はほぼなく、完全ではないが治療を受けて良かったと本当に思っている。

保険から得られたもの。それは自分の希望の治療が受けられるという「選択肢」です。長い人生の中で入院や手術は何度か経験することでしょう。その時に自分にベストな治療を受ける選択。母が僕のために入ってくれた保険。大人になってもずっと続けるからね。

ありがとう。